



iPhone と Microsoft Exchange Server



Exchange ActiveSync は下記をサポートしています。

- Microsoft Exchange Server 2003 Service Pack 2
- Microsoft Exchange Server 2007 Service Pack 1

Exchange ActiveSync のセキュリティポリシー

- リモートワイプ
- パスワードの要求
- パスワードに最低限必要な長さの指定
- 数字と文字を組み合わせたパスワードを要求
- 複雑なパスワードを要求
- 非アクティブ時間の設定

iPhone 2.0 ソフトウェアを使えば、Microsoft Exchange ActiveSyncでサポートされたMicrosoft Exchange Serverと直接接続して、プッシュ型のメール、連絡先、カレンダーなどにアクセスすることができます。Exchange ServerとiPhoneはExchange ActiveSyncによって連結されているので、新しいメールや会議の招集などが入ると、それらは速やかにiPhoneにもアップデートされます。御社のExchange Server 2003 または 2007にExchange ActiveSyncが既にサポートされている場合は、iPhone 2.0 ソフトウェアを使用できる環境が整っているので、新たな設定は不要です。Exchange Serverが使用されていて、Exchange ActiveSyncを新たに導入するという場合は、次のステップにしたがってExchange ActiveSyncを有効にしてください。

Exchange ActiveSync の設定

Networkの設定

- ファイアウォールのポート443が開いていることを確認してください。
(注： Outlook Web Accessを許可している企業では、ほとんどの場合ファイアウォールのポート443は既に開いています。)
- フロントエンドサーバにサーバ証明書がインストールされていることを確認し、Exchange ActiveSyncバーチャルダイレクトリー用のSSLを有効にしてください(ベーシックなSSL認証が要求されます)。
- Microsoftの Internet Security and Acceleration Server (以下、ISAと表記)にサーバ証明書がインストールされていることを確認し、アプローチしてくる接続アクセスに適切に対処できるようパブリックDNSをアップデートします。
- ISAサーバでは、Web リスナーを作成すると同時に、Microsoftの説明書に従ってExchange Webクライアントアクセスのパブリッシングルールを作成します。これらはExchange ActiveSyncを有効にするために必要なステップです。
- ファイアウォールを始めとする全てのネットワークアプライアンスでは、アイドル セッション タイムアウトを30分に設定します(それ以外のタイムアウト間隔を設定する場合はMicrosoft Exchangeの説明書を参照してください)。

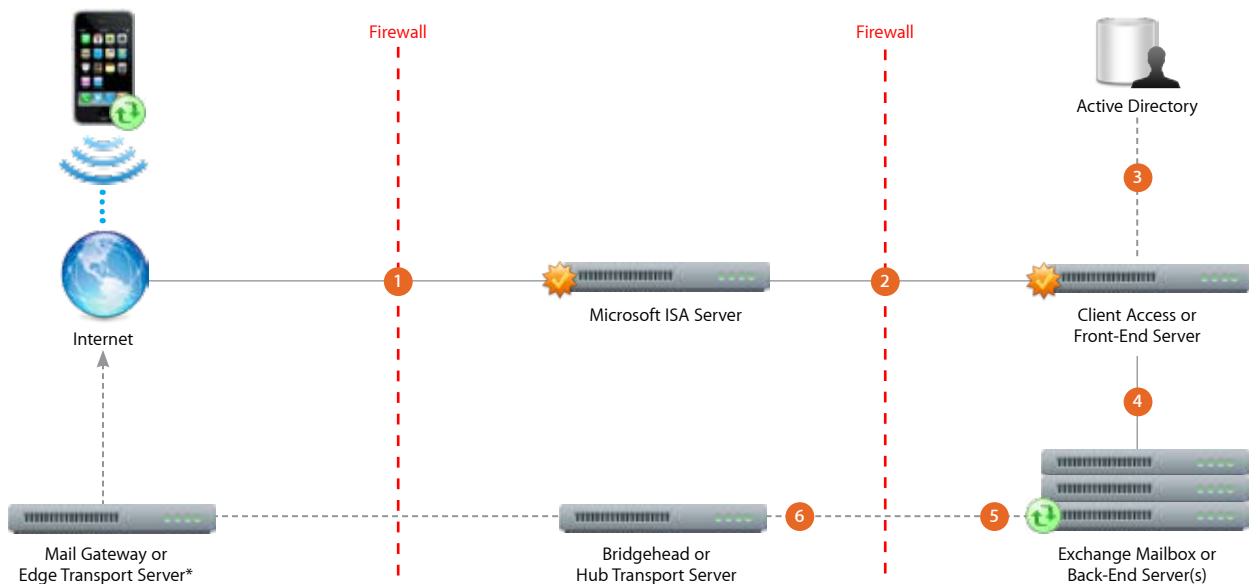
Exchangeアカウントの設定

Exchange ActiveSyncの持つ機能は、Exchange Server 2003および Exchange Server 2007の構成レベルにおいて全てのモバイルデバイスで使用できるように初期設定されています。

- 特定のユーザやグループに対してExchange ActiveSyncを使用可能にするためには、Active Directoryサービスを使用します。(Exchange Server 2007の場合は、このプロセスはExchange Management Consoleの受信設定で行います)。
- Exchange System Manager を使ってモバイル機能、ポリシーおよびデバイスセキュリティ環境の設定を行います。(Exchange Server 2007の場合、これら機能や環境の設定はExchange Manager Consoleで行います。)
- Exchange Server 2003の場合は、リモートワイプに必要なMicrosoft Exchange ActiveSync Mobile Administration Web Tool をダウンロードしてインストールします。(Exchange Server 2007の場合は、Outlook Web Accessまたは Exchange Management Consoleからリモートワイプを開始することができます。)

Exchange ActiveSync 展開シナリオ

ここではiPhoneからMicrosoft Exchange Server 2003および2007の典型的な装備に接続する方法の一例を紹介します。



*ネットワークの設定によっては、メールゲートウェイやエッジトランスポートサーバーが周辺ネットワーク(DMZ)の中に存在することがあります。

- 1 iPhoneからポート443(HTTPS)経由でExchangeActiveSyncサービスへのアクセスを要求してきます。(これはOutlookWebAccessやその他のセキュアWebサービスに使用されるポートと同じもので、ほとんどの装備では既にこのポートは開いており、SSLで暗号化されたHTTPSのトラフィックを通すように設定されています。)
- 2 ISAがExchangeフロントエンドサーバまたはクライアントアクセスサーバへのアクセスを供給します。ISAサーバは、プロキシとして、また多くの場合リバースプロキシとして設定され、Exchange Serverへのトラフィックルートを制御しています。
- 3 Exchange ServerはActive Directoryサービスを利用してアクセスしてくるユーザの認証を行います。
- 4 ユーザが適切な形で信用証明を提示しExchange ActiveSyncサービスへのアクセスを認められると、フロントエンドサーバがバックエンドサーバにある該当メールボックスとの接続を行います(Active Directory Global Catalog経由で)。
- 5 これでExchangeActiveSync接続が確立されます。サーバ上の情報更新や変更がiPhoneにワイアレスで送られると同時に、iPhone上の変更もExchange Serverに反映されます。
- 6 iPhoneの送信済メールは、Exchange ActiveSync経由でExchange Serverでも同期化されます(ステップ5) 送信メールを外部のアカウント宛に送る場合は通常、ブリッジヘッド(またはハブ トランスポート)サーバ経由で外部のメールゲートウェイ(またはエッジ トランスポート サーバ)へ、SMTPを介して送られます。ネットワークの設定によっては、外部メールゲートウェイやエッジ トランスポート サーバが、周辺ネットワークの中あるいはファイアウォールの外に存在する場合があります。